

経営比較分析表（令和5年度決算）

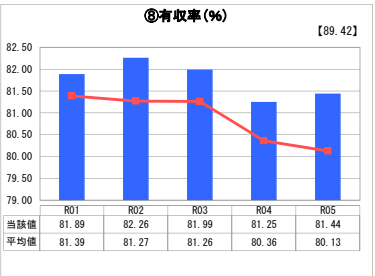
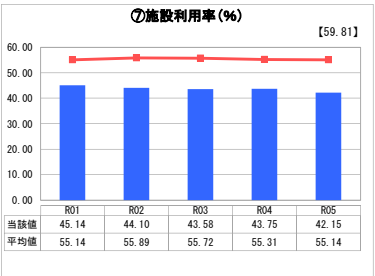
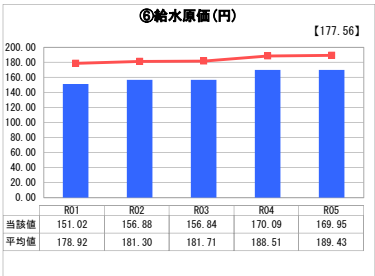
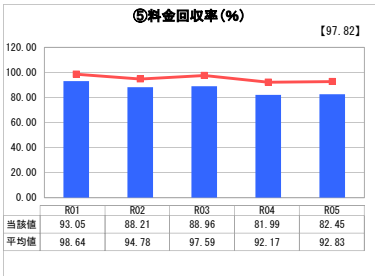
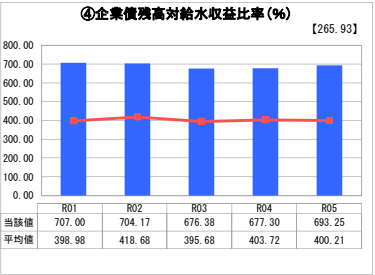
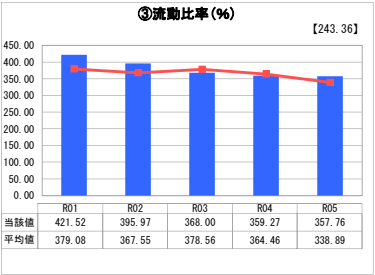
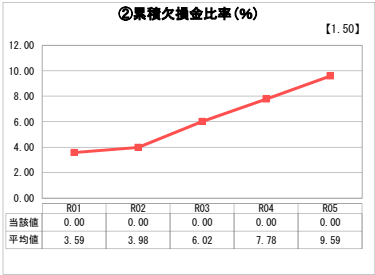
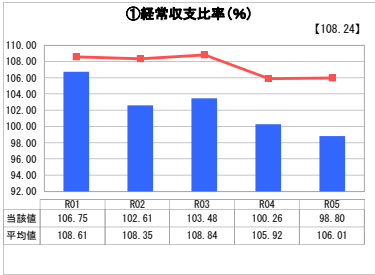
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり重産料金(円)	
-	63.68	96.42	2,585	

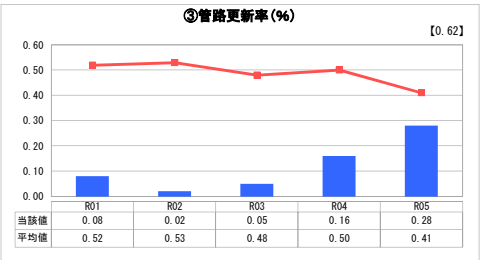
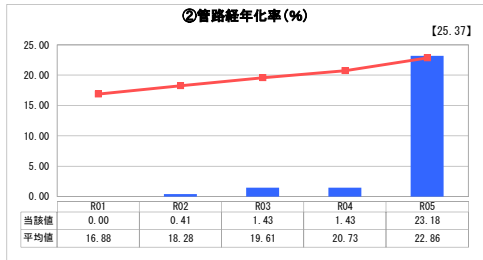
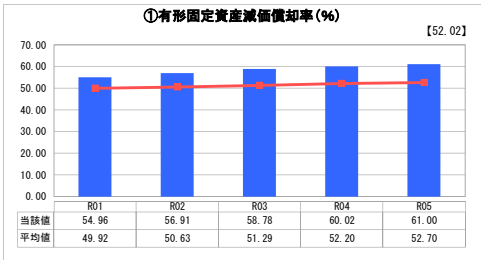
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,483	872.43	24.62
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,552	46.15	445.33

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を割り込み、令和5年度は赤字となっている。改善のため費用削減を進めるほか、令和7年度に料金制度審議会の開催を予定しており、水道料金の値上げ等を検討していく予定。

② 平成24年度に水道料金値上げをしたことにより累積欠損金は発生していないが、令和5年度は経常収支比率が100%を割り込んでおり、料金の見直しを含めた経営改善が必要である。

③ 流動比率は100%以上であり短期的な債務に対する支払い能力はあるといえるが、企業債に係る流動負債がピークを迎えている中、比率減少が想定される。

④ 企業債務高対給水収益比率については、簡易水道の統合により企業債務高が増えたことから比率はピークを迎えている。また、R4より水道管の更新・耐震化を行っており、今後残高増加が予想されるため長期的な更新計画を行う必要がある。

⑤⑥ 料金回収率は100%を下回っており、かつ給水原価が上昇しているため、さらなる費用削減を行う他、料金改定を視野に健全経営に努める必要がある。

⑦ 季節によって水需要の変動が大きいことから、施設規模に対する利用率は低くなっている。今後は、アセットマネジメント等による適切な施設管理に努めていく必要がある。

⑧ 平成30年度より漏水調査および修繕を大規模に実施しており、有収率は改善傾向にあったが、令和4年度は豪雨災害や凍結破損による漏水の影響で有収率が落ち込んだ。令和5年度は改善に転じたものの、減少傾向にある。

2. 老朽化の状況について

① 耐用年数を迎える施設が増加していることから、有形固定資産償却率が増加している。アセットマネジメント等による長期的な更新計画を元に、財源の確保など経営とのバランスを取りながら、効率的な更新に取り組んでいく必要がある。

②③ 配水管を中心に、耐用年数を経過した管路できており、管路経年率が上昇している。導水管及び送水管に関しても、昭和60年の下水道布設時に布設替を行っているが、布設替を行っていないものについて、令和2年度より耐用年数を経過したものがでてきている。アセットマネジメント等による長期的な更新計画を元に、令和4年度から耐震化を主とした管路更新を進めているため、管路更新率は増加傾向にある。

全体総括

今後も人口減少が続くと見込んでおり、給水収益の減少が事業経営に及ぼす影響は大きい。また、簡水から統合した施設の維持管理費の増加や既存施設・設備の老朽化など、取り組むべき課題も多く、電気や資材等の単価も上昇していることから、事業運営は一層厳しくなることが想定される。

令和7年度に開催予定の料金制度審議会では、水道料金の見直し等の検討を行い、継続して長期的な経営計画の検証を行うとともに、効率的な事業運営、適正な料金水準の算定及びそれに伴う料金改定等を検討し、経営改善を図っていく必要がある。